連載

いのちのひろば（48）

毎月１回、中旬の水曜日に掲載

地域医療の歩みと恩恵

—新型コロナウィルス感染症（COVID—19）に対応—（後編）

小田原医師会（感染症研究会）　神山　務
（感染症対策委員会）　神山明美

今月のひとこと

小児5～11歳のワクチン接種が始まります。追加接種を順番に受け、みんなの命を守りましょう。

コロナの感染症情報

医師会の中で、感染症情報を知らせてくれ、コロナの現状や治療の情報を日進月歩、日々知らせてくれています。医師会の先生方に最新情報をインターネットで知らせています。

今回の新型コロナウィルス感染症（COVID—19）は、日本政府、医師会、報道機関も協力する体制を取ります。いつも批判ばかりの報道機関が協力するほどの国難であり、大災害です。

正しい情報は貴重です。

災害時にはデマが飛び、それによる風評被害が起こります。それを防ぐために正しい情報が大切です。感染症情報をニュースで、地方のことは地域の新聞で知ることが出来ます。医師会もPCR検査の検査結果をメールで知らせています。これにより地域の皆さんに正しい情報が届けられます。

防護具をつけて診察

コロナワクチンの接種

コロナワクチンの接種は、医療従事者を初め、高齢者から始まります。ワクチンを国民皆が平等に無駄なく接種できるように各自治体に配布されます。自治体は各医療機関に配布します。

戦争中の配給制度の様です。早く注射を打ちたいが、輸入してくる量が制限されているので、入ってきた分を都道府県に分けて、公平に無駄なく打つしかない。ワクチンの効果はあります。60％の人が打てば効果が見えると言うが、途中からアルファ、ベータ、等のほかにデルタが型の感染力の強いウィルスが入って来て、80％の人が打たないとまた再燃するといわれ、年齢を下げ、今十月には十二歳からの人に打つようになり、進行中です。

強い感染症なので、ワクチン接種後半年過ぎたら、追加接種をした方が良いことが解り、計画されています。

保育園で小流行

小田原市においては流行初期より散発的に保育園でコロナのクラスター（小流行）が見られています。子どもの感染は勿論あるわけですが、子どもの症状はなく、先生方が発症しています。そこで、保育園の先生方により早くの接種が必要とされました。

子どもと先生の生活時間が長いこと、接触が密であることが、要因であることが解りますが、なかなか密になることを避けられません。3歳児からは園でマスクをしています。予防接種を幼児にまで広げることが検討されています。家庭内感染の要因に子どもからということもあります。

命の安全のために

小田原市の市政の基本方針は命の安全、安心安全の町造りであると歴代の市長さんの基本方針です。素晴らしい事です。安全のために安全な町づくりが大切です。その一端を担うのが医師会です。医の倫理のもとに働いていますが、パラメディカルのスタッフや事務の方々、行政の力、市民の協力が必要です。

工業、建設業界、運輸業界でも安全を重視する社会となっています。

安全のためには資本主義経済の理論を取り入れてはいけない、ということが近年言われています。

流行らないかもしれないから、無駄な費用は掛けられないとコロナワクチンの開発は頓挫していました。基礎研究は直ぐに生活とは関係なくとも将来役に立ちます。その時はとてつもないメリットを生みます。

医学の基礎研究費は毎年1パーセントずつ削られてきています。優秀な学者は海外で研究せざるを得ないのです。

日本の研究開発が基礎研究によって守られ、世界を救うようになって欲しいと思います。基礎研究のための費用を惜しんではいけません。人材はいますがその人材を守る費用が大切です。

次のパンデミックに備えることになります。

かみやま・つとむ　新潟大学医学部卒。医学博士、かみやまアレルギー科小児科クリニック理事長

かみやま・あけみ　昭和大学医学部大学院卒。医学博士、かみやまアレルギー科小児科クリニック院長、務の三女

次回は4月中旬「帯状疱疹ワクチンについて」を掲載する予定です。

職域接種

集団接種

小田原医師会より住民の方々へ

①現在、何らかの理由で通院している方は、自己判断で通院（お薬）を中断しないでください。
現在治療中の病態が保てなくなることで、病態そのものが悪化し、さらに体調が不安定になることで感染のリスクが高くなり危険が増します。処方のうけとり方はかかりつけ医と相談できますので問い合わせてください。

②感染症と思われる「体調不良」がみられるとき、特に肺炎など呼吸器症状があるときには、慌てて受診せず、右記の手順でかかりつけ医または近医に問い合わせをしてください。

不安な毎日を送られていると思いますが、協力してこの窮状を乗り切りましょう。

発熱、せき、咽頭痛（のどの痛み）があるときは、かかりつけ医へ

かかりつけ医がいない場合は
小田原医師会地域医療連携室（☎0465-47-0833、月～土 9:00～12:00・13:00～17:00）もしくは
発熱等診療予約センター（☎0570-048914、9:00～21:00）に連絡をしてください。

上記の症状がない方のお問い合わせ先
新型コロナウイルス感染症専用ダイヤル
☎0570-056774

医療機関検索は小田原医師会のサイトから利用できます

小田原医師会の医療機関検索https://www.odawara.kanagawa.med.or.jp/